

**稲美町結婚・出産に関する調査
調査結果報告書**

令和2年 11月

稲 美 町

目次

I	調査概要	1
1.	調査の目的	1
2.	調査項目	1
3.	調査の設計	1
4.	回収状況	1
5.	報告書を見る際の注意事項	1
II	調査結果	2
1.	回答者の属性	2
2.	稲美町での生活環境等について	6
3.	人口問題について	11
4.	行政やまちづくりへの住民参加等について	14
5.	稲美町の施策について	18

I 調査概要

1. 調査の目的

稲美町が目標とするまちの姿を明らかにするとともに、実現に向けた施策を示す「第6次稲美町総合計画」の策定にあたり、住民の現在の生活環境や将来に向けたまちづくりについての意見を把握し、町の施策や計画の基礎資料とするために実施した。

2. 調査項目

- (1) 回答者自身のことについて
- (2) 稲美町での生活環境等について
- (3) 人口問題について
- (4) 行政やまちづくりへの住民参加等について
- (5) 稲美町の施策について

3. 調査の設計

- ・調査対象：稲美町内にお住まいの15～49歳の方 1,776人
- ・調査方法：郵送配布・郵送回収
- ・調査期間：令和2年9月15日（火）～ 令和2年9月30日（水）

4. 回収状況

対象者数	有効回収数	有効回収率
1,776人	731人	41.2%

5. 報告書を見る際の注意事項

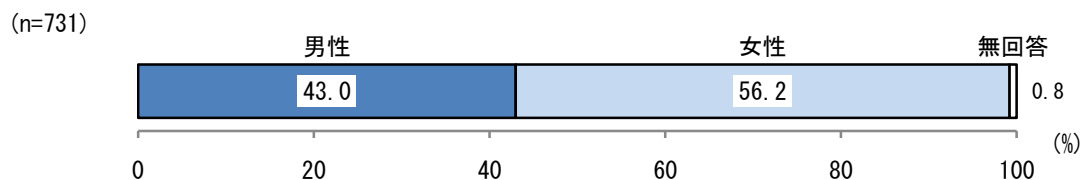
- 回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（％）で示してある。
- 百分率は小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このため、百分率の合計が100%にならないことがある。
- 1つの質問に2つ以上答えられる“複数回答可能”の場合は、回答比率の合計が100%を超える場合がある。
- グラフ等の記載にあたっては、調査票の選択肢の文言を一部省略している場合がある。
- サンプル数が少ないものについては、コメントを割愛している。

Ⅱ 調査結果

1. 回答者の属性

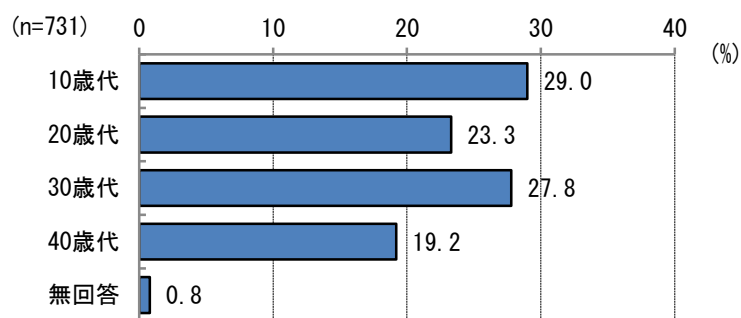
(1) 性別

- 調査回答者の性別は、「男性」が43.0%、「女性」が56.2%となっている。



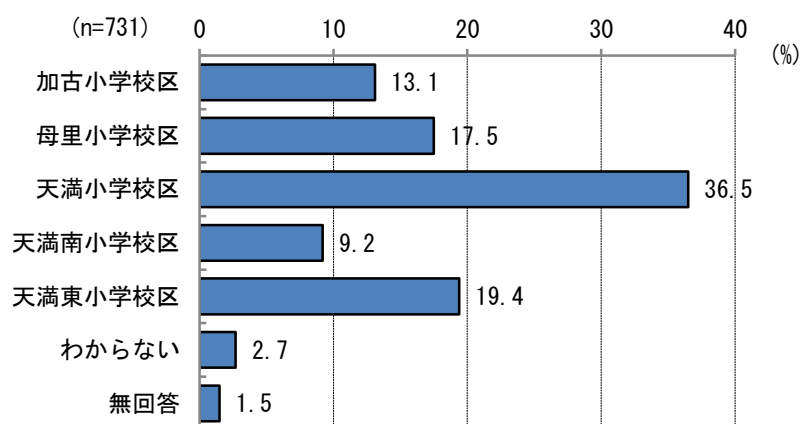
(2) 年代

- 調査回答者の年齢は、「10歳代」が29.0%と最も多く、次いで「30歳代」(27.8%)、「20歳代」(23.3%)の順となっている。



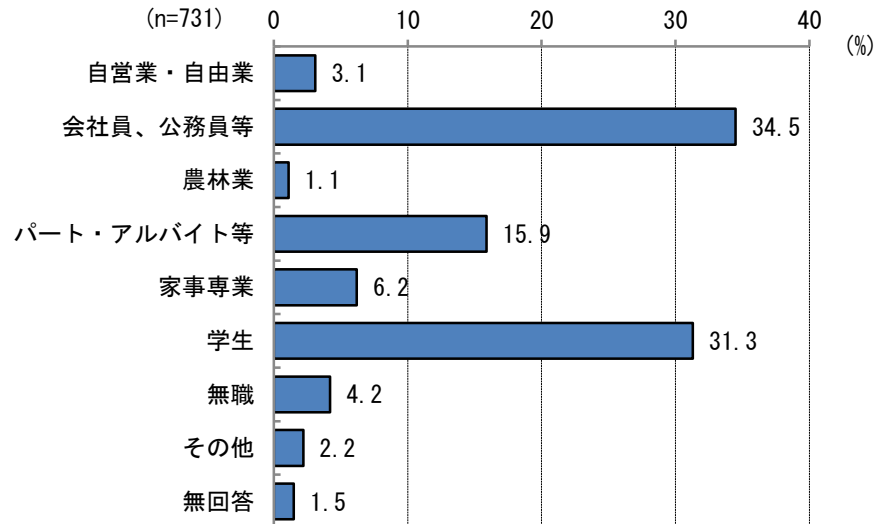
(3) 居住小学校区

- 調査回答者の小学校区は、「天満小学校区」が36.5%と最も多く、次いで「天満東小学校区」(19.4%)、「母里小学校区」(17.5%)の順となっている。



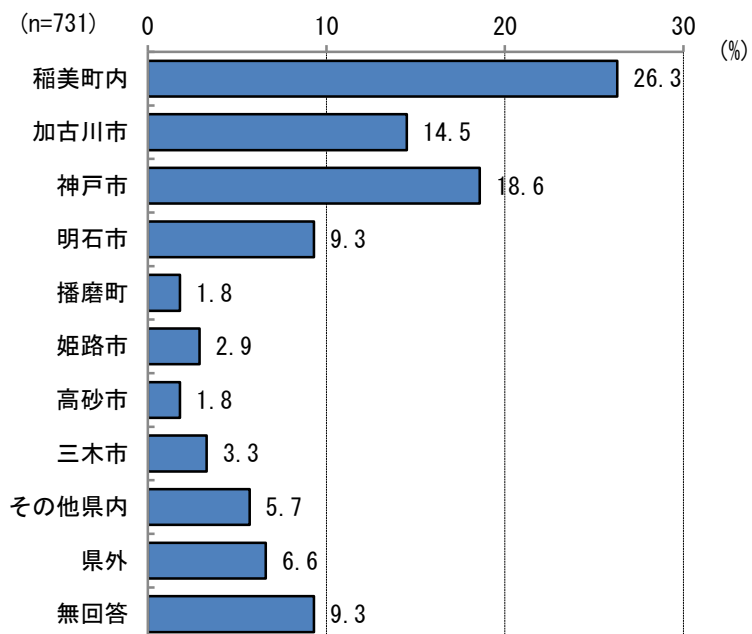
(4) 職業

- ・調査回答者の職業は、「会社員、公務員等」が34.5%と最も多く、次いで「学生」(31.3%)、「パート・アルバイト等」(15.9%)の順となっている。



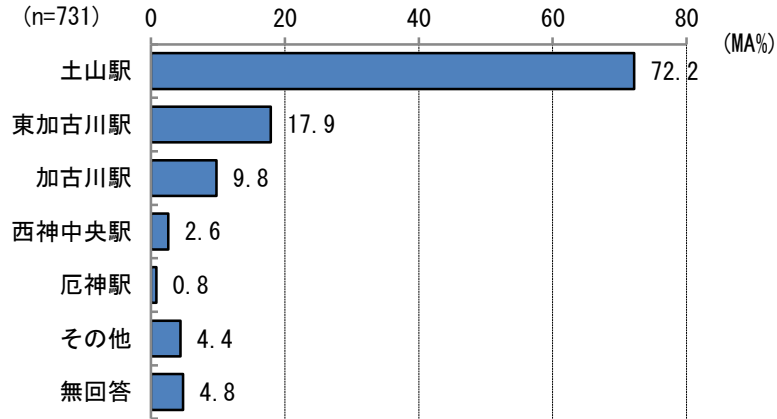
(5) 通勤・通学先 ※(4)で「就労している人」のみ

- ・調査回答者の通勤・通学先は、「稲美町内」が26.3%と最も多く、次いで「神戸市」(18.6%)、「加古川市」(14.5%)の順となっており、『町外』に通勤・通学している人が6割以上を占めている。



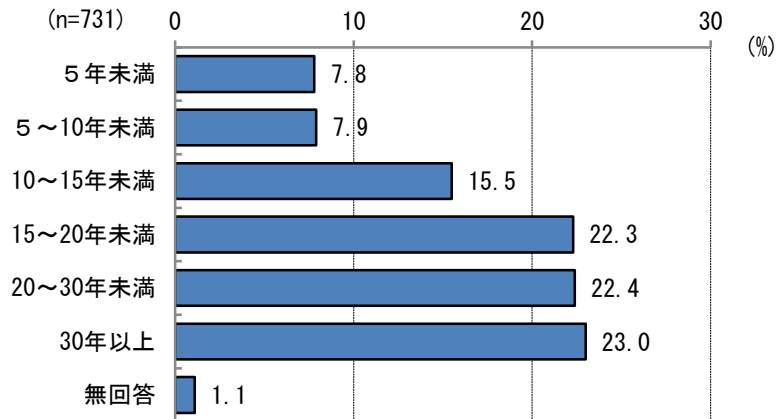
(6) 自宅からよく利用する駅

- 調査回答者の自宅からよく利用する駅は、「土山駅」が72.2%と最も多く、次いで「東加古川駅」(17.9%)、「加古川駅」(9.8%)の順となっている。



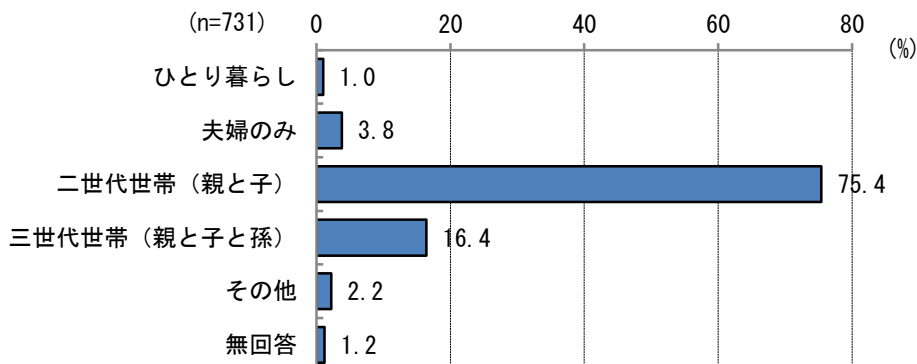
(7) 稲美町での居住歴

- 調査回答者の稲美町での居住歴は、「30年以上」が23.0%と最も多く、次いで「20~30年未満」(22.4%)の順となっており、稲美町に居住して『20年以上』の人が4割以上を占めている。



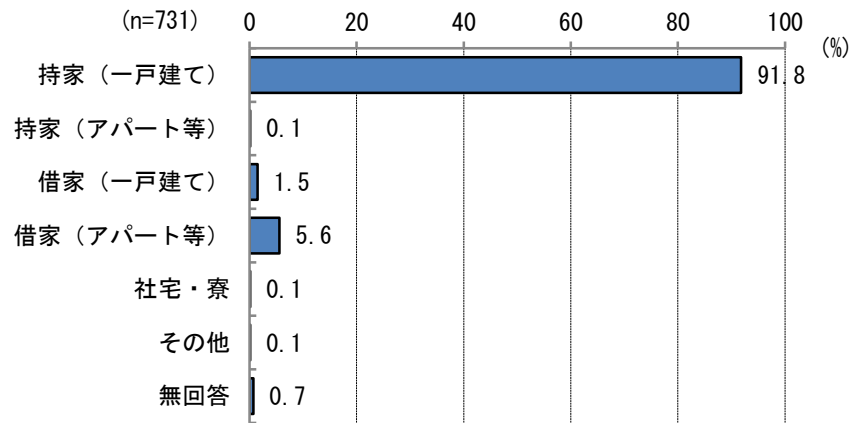
(8) 世帯構成

- 調査回答者の世帯構成は、「二世帯世帯(親と子)」が75.4%と最も多く、次いで「三世帯世帯」(16.4%)となっている。



(9) 居住形態

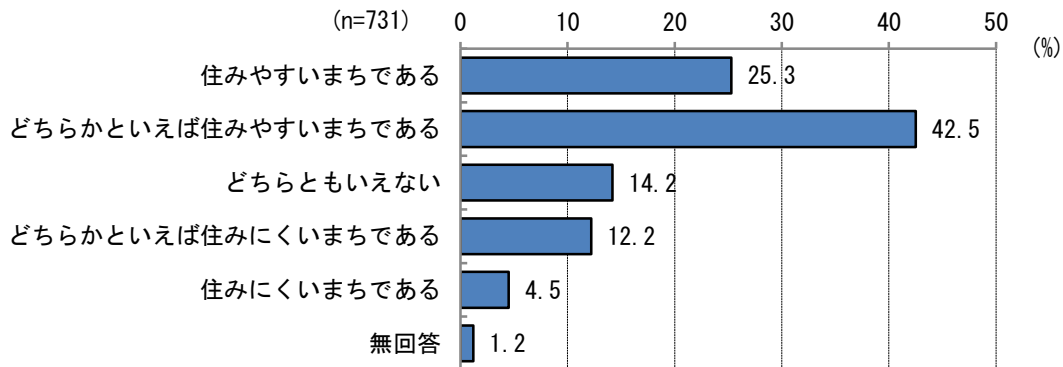
・調査回答者の居住形態は、「持家（一戸建て）」が91.8%と大半を占めている。



2. 稲美町での生活環境等について

(1) 稲美町の住みやすさの評価

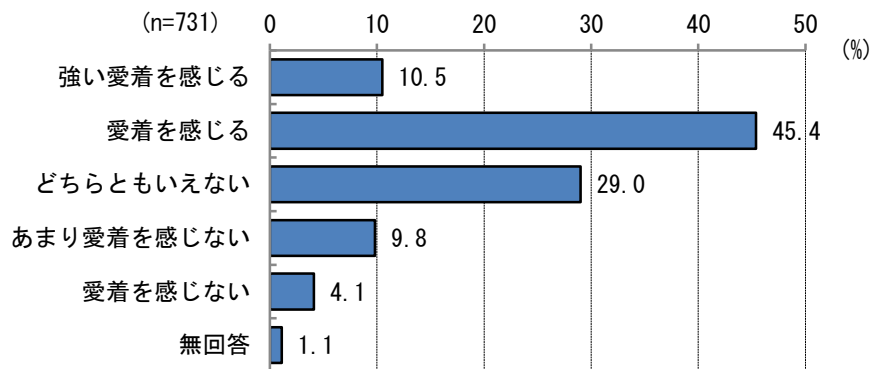
- ・地域福祉の住みやすさの評価については、「どちらかといえば住みやすいまちである」が42.5%と4割を超えて最も高く、「住みやすいまちである」(25.3%)と合わせると、7割近くの人が住みやすいと感じていることがわかる。
- ・一方で、「どちらかといえば住みにくいまちである」(12.2%)と「住みにくいまちである」(4.5%)を合わせると、1割以上の人が住みにくと感じていることがわかる。



(2) 稲美町・お住まいの地区への愛着

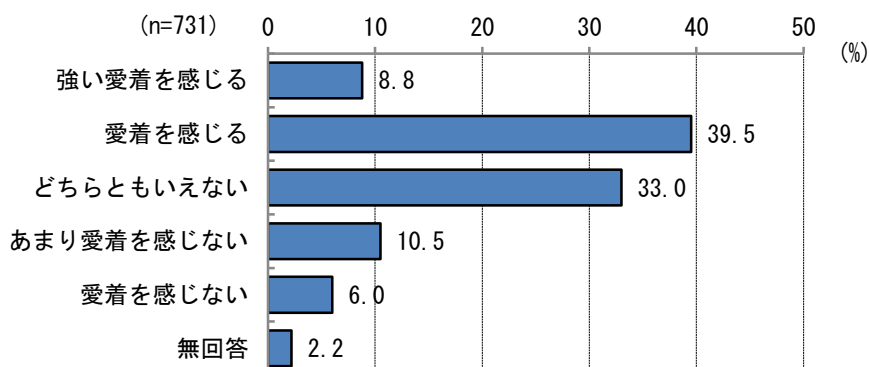
① 稲美町への愛着

- ・稲美町への愛着については、「愛着を感じる」が45.4%と4割を超えて最も高く、「強い愛着を感じる」(10.5%)と合わせると、半数以上の人稲美町に愛着を感じていることがわかる。



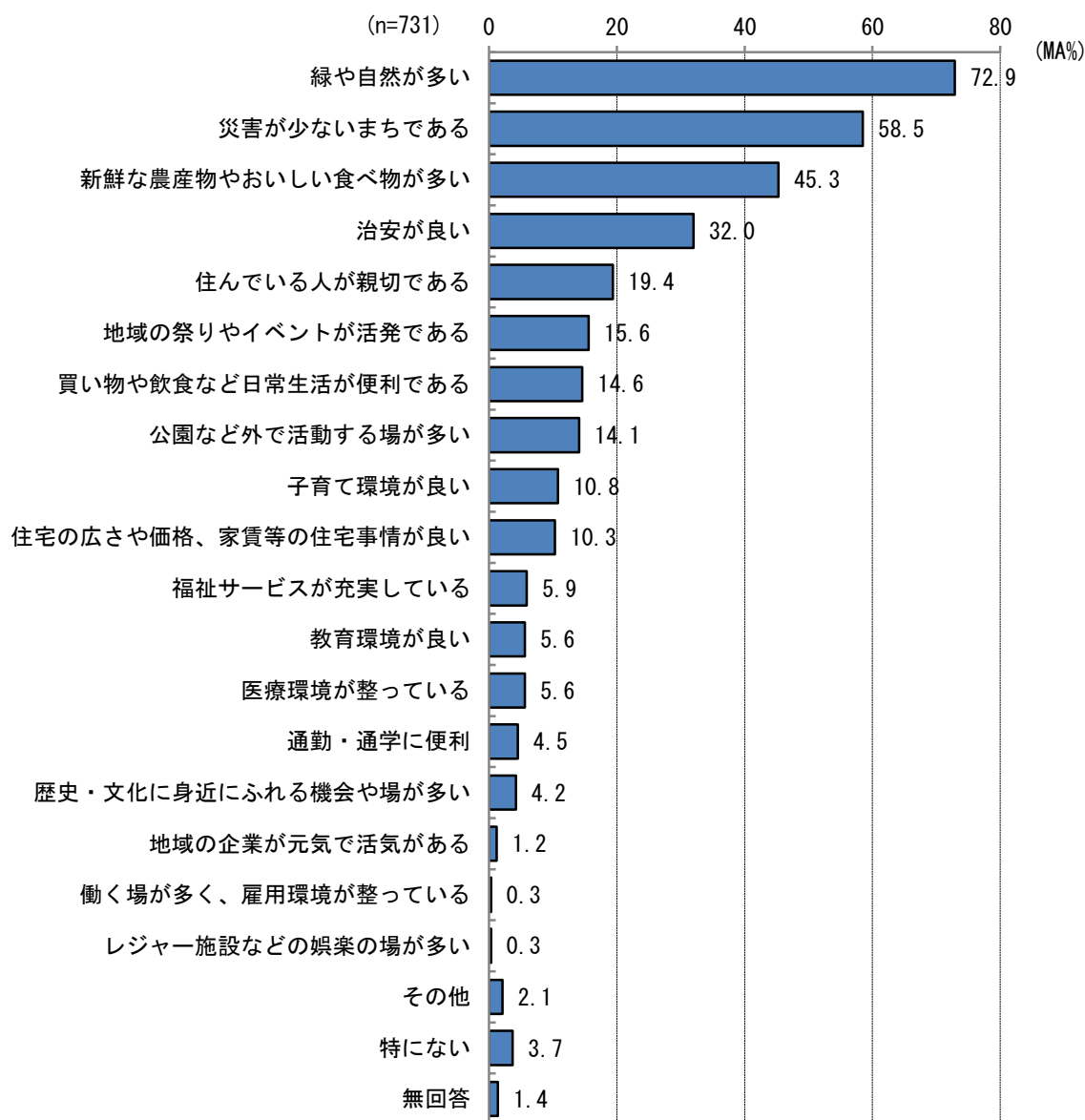
② 自分の住む地区への愛着

- ・自分の住む地区への愛着については、「愛着を感じる」が39.5%と約4割を占めて最も高く、「強い愛着を感じる」(8.8%)と合わせると、半数近くの人自分の住む地区に愛着を感じていることがわかる。稲美町への愛着と比較すると、やや低い結果となっている。



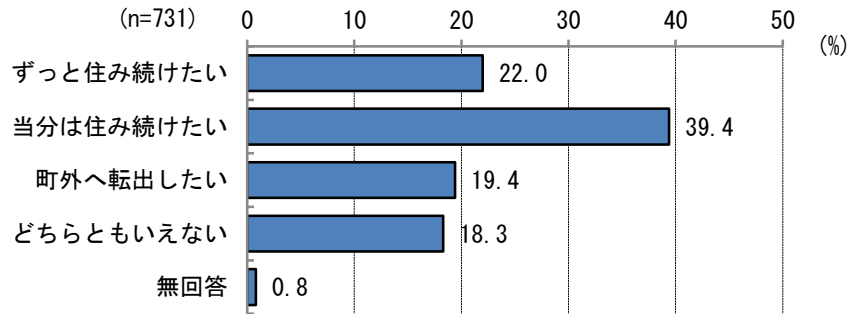
(3) 稲美町の強み

- ・稲美町の強みについては、「緑や自然が多い」が72.9%と7割以上を占めて最も多くなっている。
- ・次いで、「災害が少ないまちである」(58.5%)、「新鮮な農産物やおいしい食べ物が多い」(45.3%)、「治安が良い」(32.0%)、「住んでいる人が親切である」(19.4%)の順となっており、災害の少なさや自然の多さ、人柄の良さなどが高い項目となっている。



(4) 稲美町での今後の居住意向

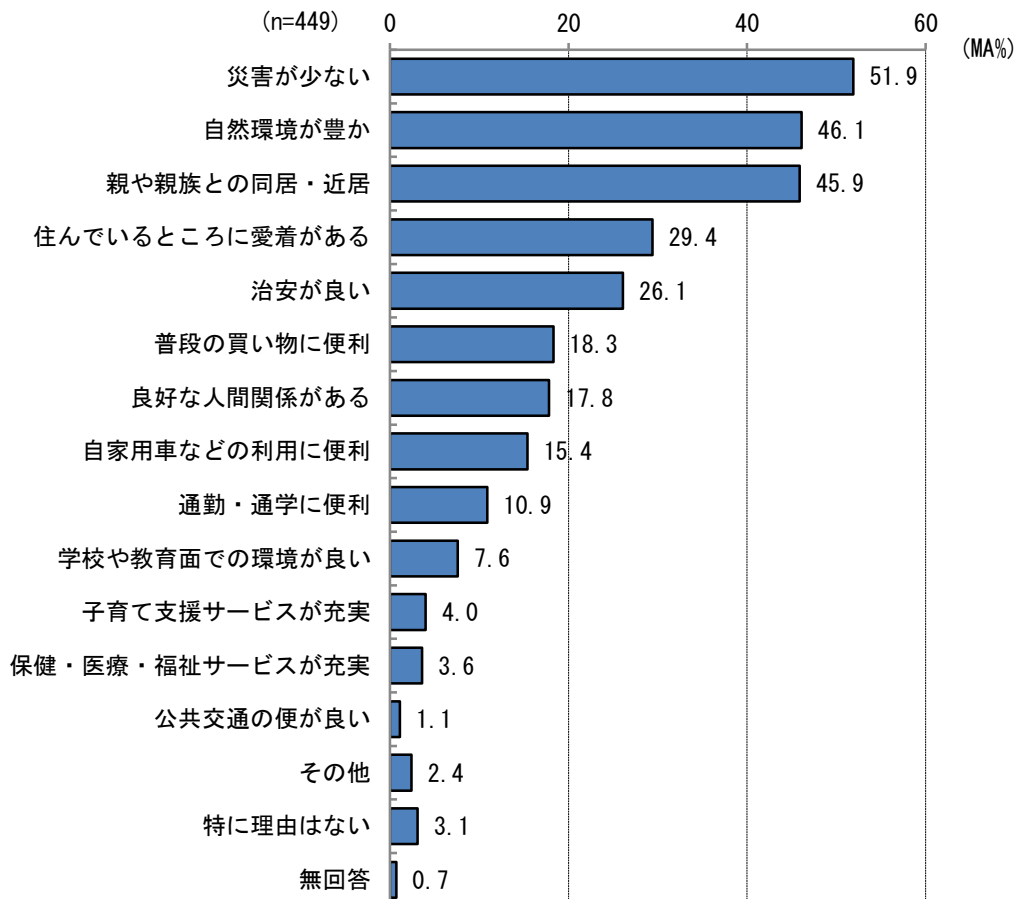
- ・稲美町での今後の居住意向については、「当分は住み続けたい」が39.4%と約4割を占めて最も高く、「ずっと住み続けたい」(22.0%)と合わせると、6割以上の方が住み続けたいと感じていることがわかる。
- ・一方で、「町外へ転出したい」は、19.4%と約2割を占めている。



(5) 稲美町に今後も住み続けたい理由

※ (4) で「ずっと住み続けたい」または「当分は住み続けたい」と回答した人のみ

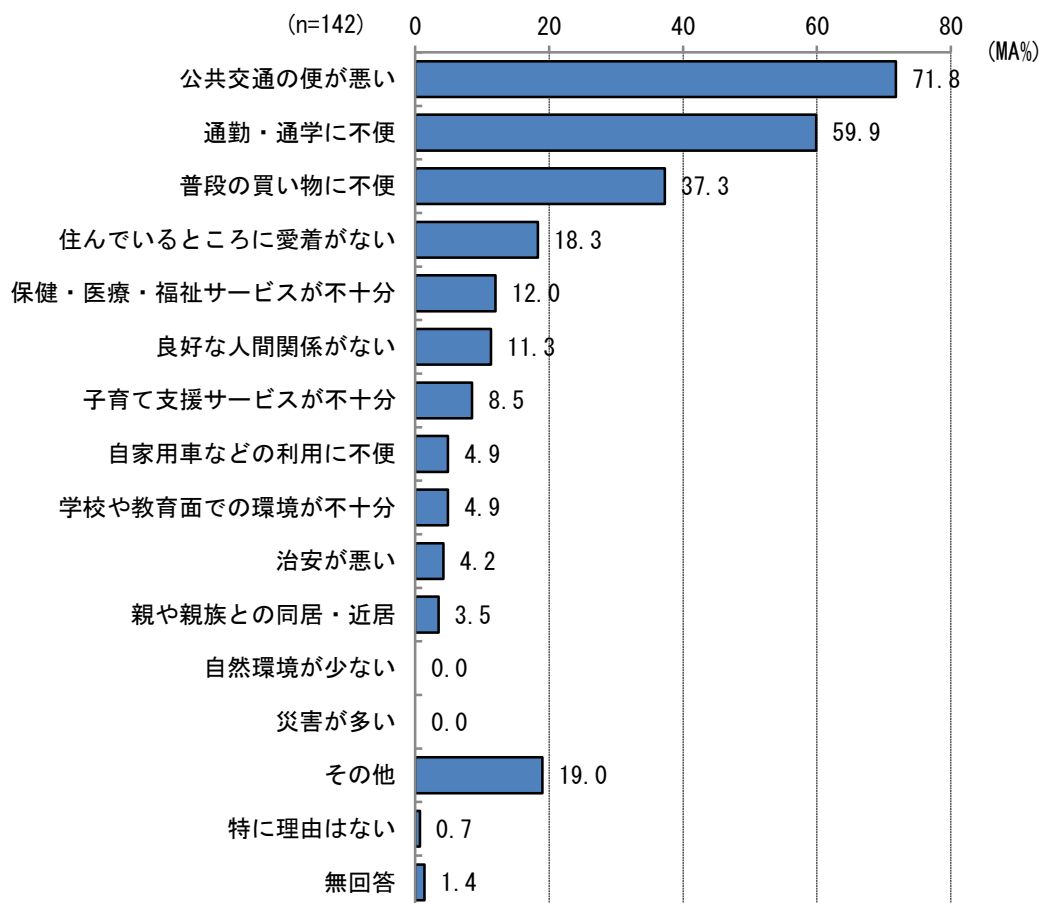
- ・稲美町に今後も住み続けたいと回答した人の理由については、「災害が少ない」が51.9%と半数以上を占めて最も高く、次いで「自然環境が豊か」(46.1%)、「親や親族との同居・近居」(45.9%)の順となっている。



(6) 稲美町に今後も住み続けたいと思わない理由

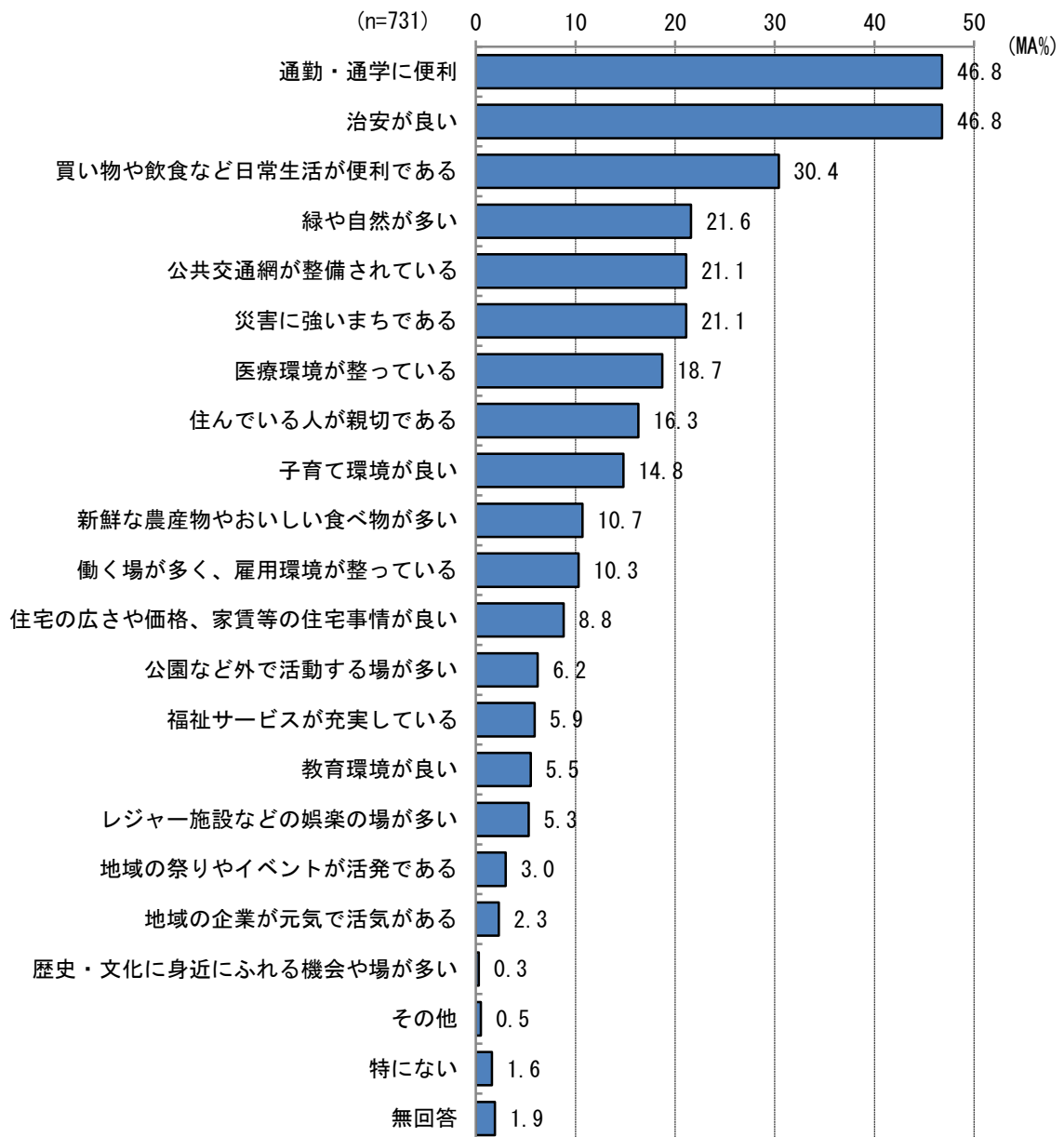
※(4)で「町外へ転出したい」と回答した人のみ

- ・町外へ転出したいと回答した人の理由については、「公共交通の便が悪い」が71.8%と7割以上を占めて最も高く、次いで「通勤・通学に不便」(59.9%)、「普段の買い物に不便」(37.3%)の順となっており、主に交通や移動に不便さを感じている人が多い結果となっている。



(7) 居住環境として重要だと考える項目

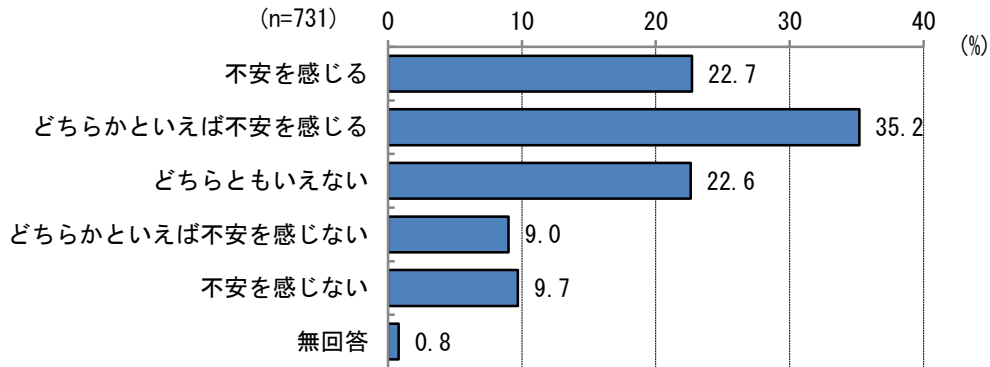
- ・居住環境として重要だと考える項目については、「通勤・通学に便利」及び「治安が良い」がともに 46.8%と4割以上を占めて最も高く、次いで「買い物や飲食など日常生活が便利である」(30.4%)、「緑や自然が多い」(21.6%)、「公共交通網が整備されている」や「災害に強いまちである」(21.1%)の順となっている。
- ・(3)の稲美町の強みと比較すると、治安の良さ、自然の豊かさ、災害の少なさ(災害への強さ)などでは上位項目で一致している一方で、通勤・通学への利便性では重要性の高さに比べて、住民の評価はやや低くなっている。



3. 人口問題について

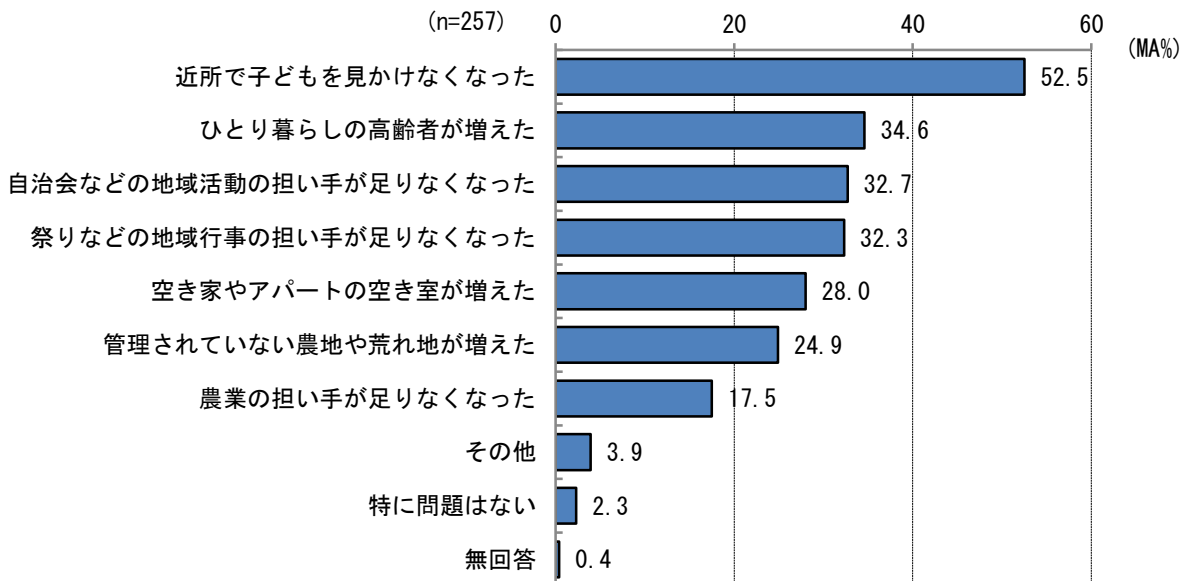
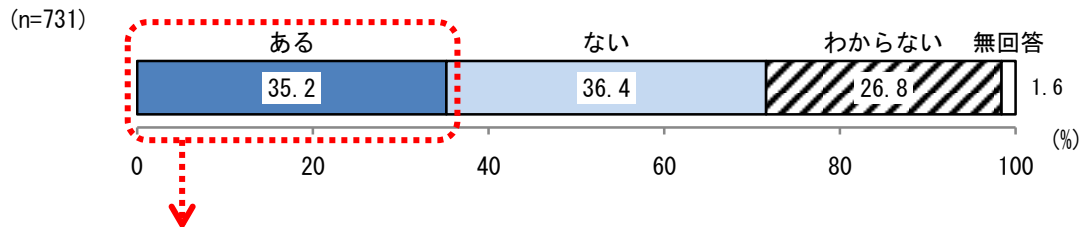
(1) 人口減少が進むことに対する不安

- 人口減少が進むことに対する不安については、「どちらかといえば不安を感じる」が35.2%と3割を超えて最も高く、「不安を感じる」(22.7%)と合わせると、6割近くの人が人口減少に不安を感じていることがわかる。



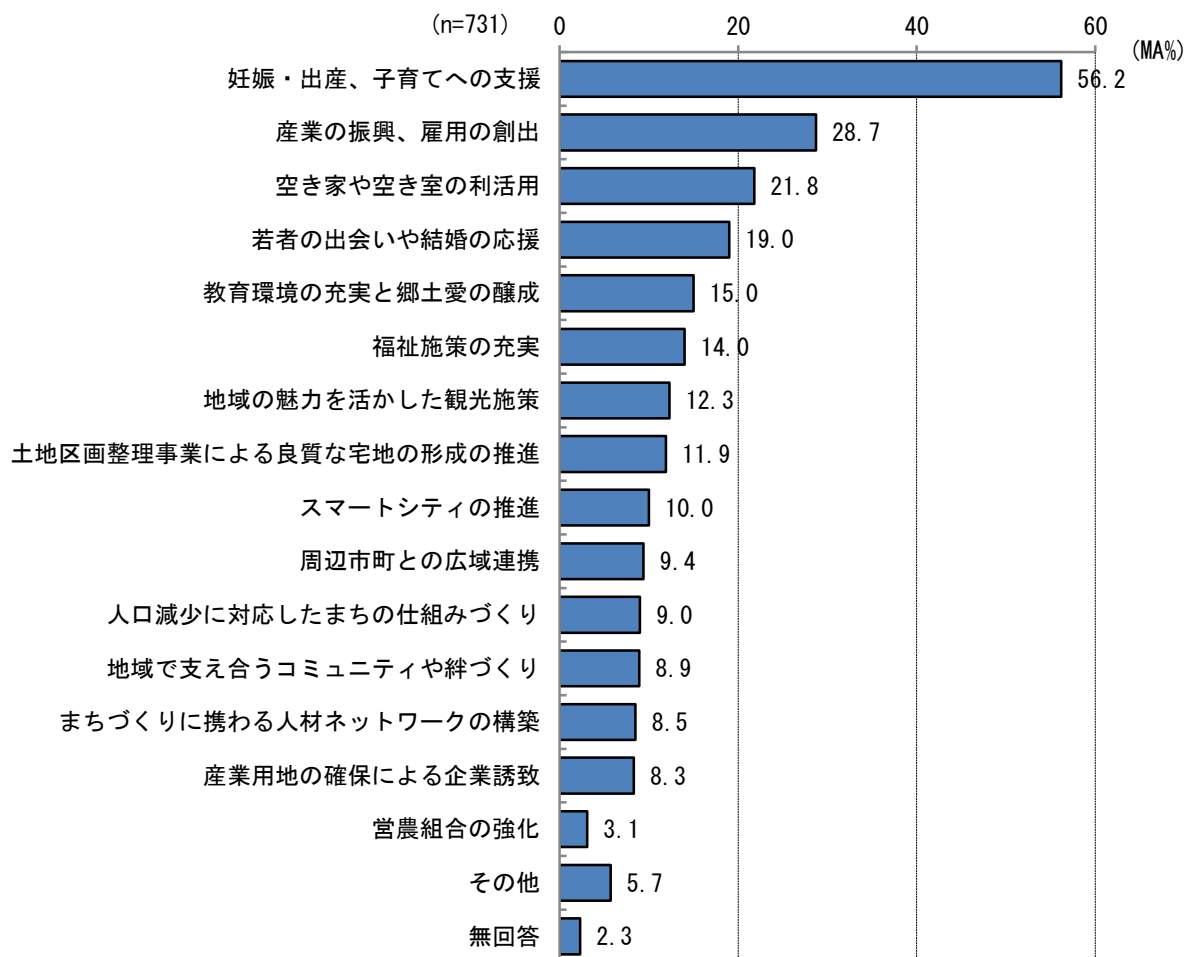
(2) 日常生活の中で人口が減っていると実感することの有無

- 日常生活の中で人口が減っていると実感することについては、「ある」が35.2%と3割以上を占めている。
- 実感することがあると回答した人で、身の回りに起きている問題では、「近所で子どもを見かけなくなった」が52.5%と半数を超えて最も高く、次いで「ひとり暮らしの高齢者が増えた」(34.6%)、「自治会などの地域活動の担い手が足りなくなった」(32.7%)の順となっている。



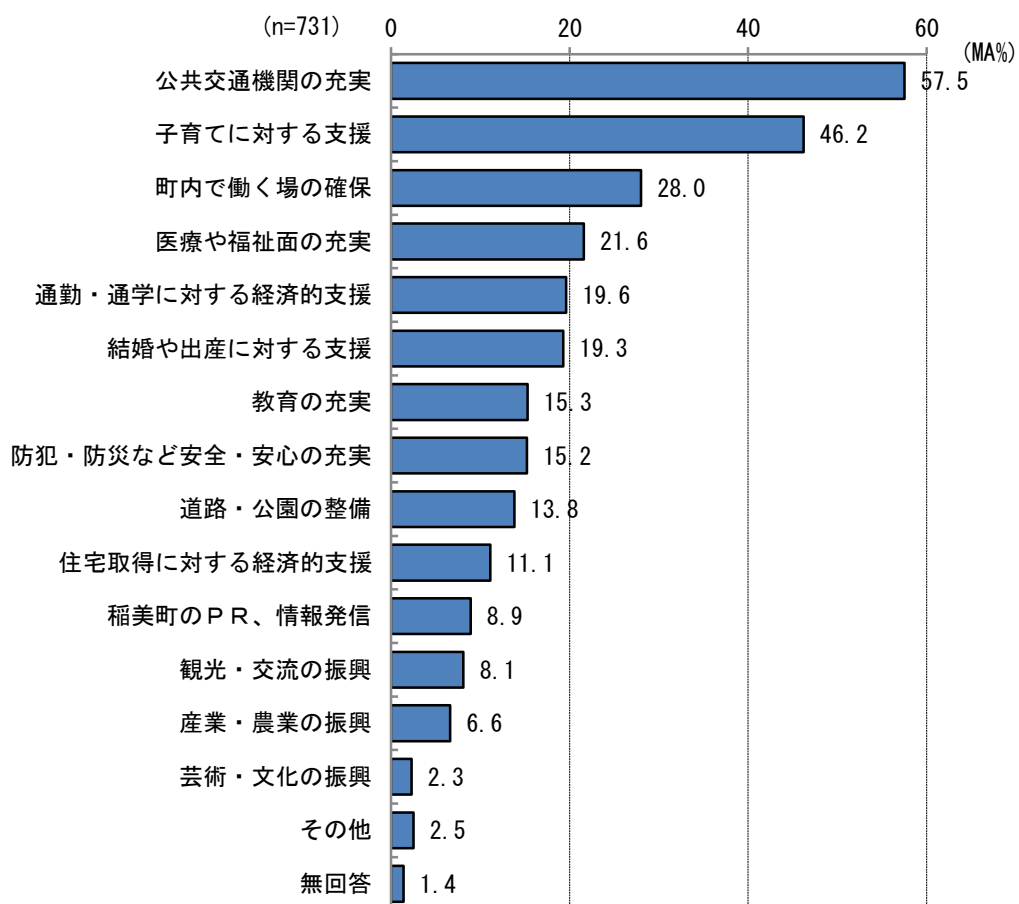
(3) 人口減少を抑制するために、力を入れるべき取り組み

- ・人口減少を抑制するために、力を入れるべき取り組みでは、「妊娠・出産、子育てへの支援」が56.2%と半数以上を占めて最も高く、次いで、「産業の振興、雇用の創出」(28.7%)、「空き家や空き室の利活用」(21.8%)、「若者の出会いや結婚の応援」(19.0%)の順となっており、人口増に直接かかわる妊娠・出産への支援や雇用創出に対する要望が高くなっている。



(4) 若い世代が定住していくために力を入れるべき施策

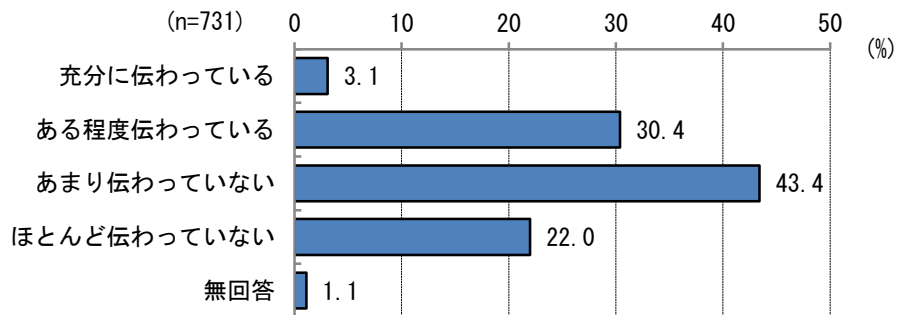
・若い世代が定住していくために力を入れるべき施策では、「公共交通機関の充実」が57.5%と6割近くを占めて最も高く、次いで、「子育てに対する支援」(46.2%)、「町内で働く場の確保(企業誘致、起業家支援、雇用情報の提供など)」(28.0%)、「医療や福祉面の充実」(21.6%)の順となっており、居住環境における重要項目と同様の傾向となっているものの、子育て支援を含む福祉面の充実、雇用の確保が望まれている。



4. 行政やまちづくりへの住民参加等について

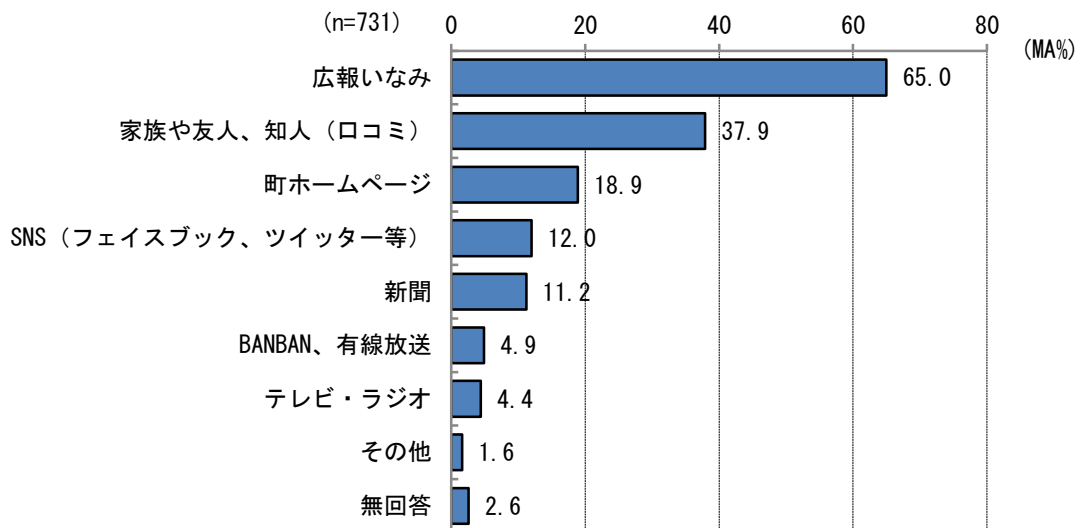
(1) 町政に関する情報の入手状況

- 町政に関する情報の入手状況については、「あまり伝わっていない」が43.4%と4割を超えて最も高く、「ほとんど伝わっていない」(22.0) と合わせると、6割以上の方が町政に関する情報は伝わっていないと感じていることがわかる。
- 一方で、「十分に伝わっている」(3.1%) と「ある程度伝わっている」(30.4%) を合わせると、3割以上の方が町政に関する情報は伝わっていると感じていることがわかる。



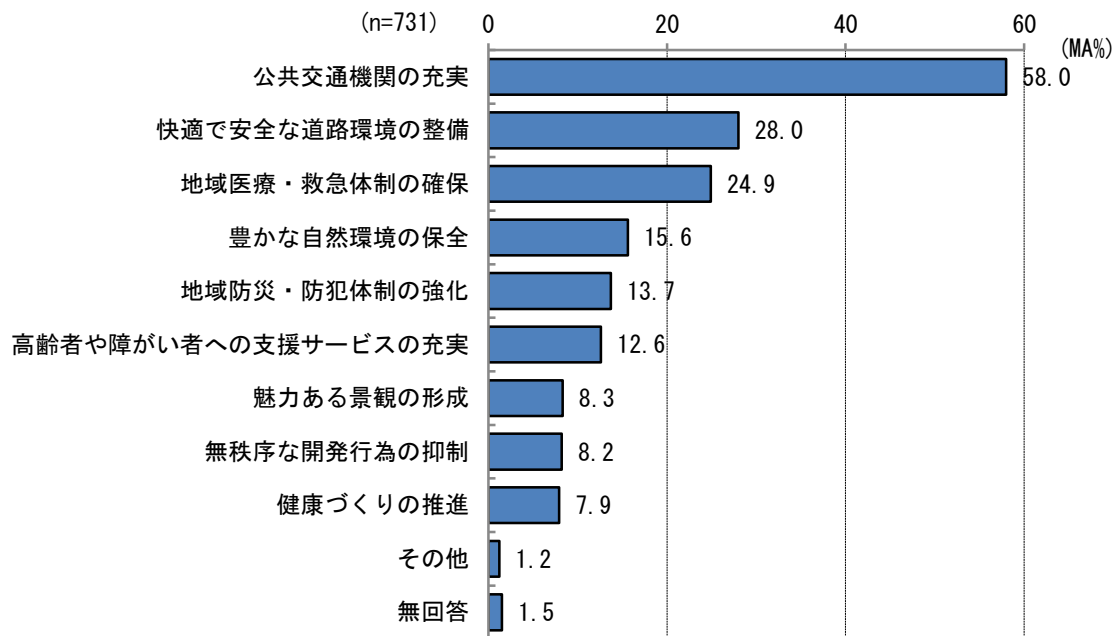
(2) 町の情報を知るために利用している手段

- 町の情報を知るために利用している手段については、「広報いなみ」が65.0%と6割を超えており、その他の項目と比べても突出して高くなっている。
- 次いで、「家族や友人、知人（口コミ）」(37.9%)、「町ホームページ」(18.9%)、「SNS（フェイスブック、ツイッター等）」(12.0%) の順となっている。



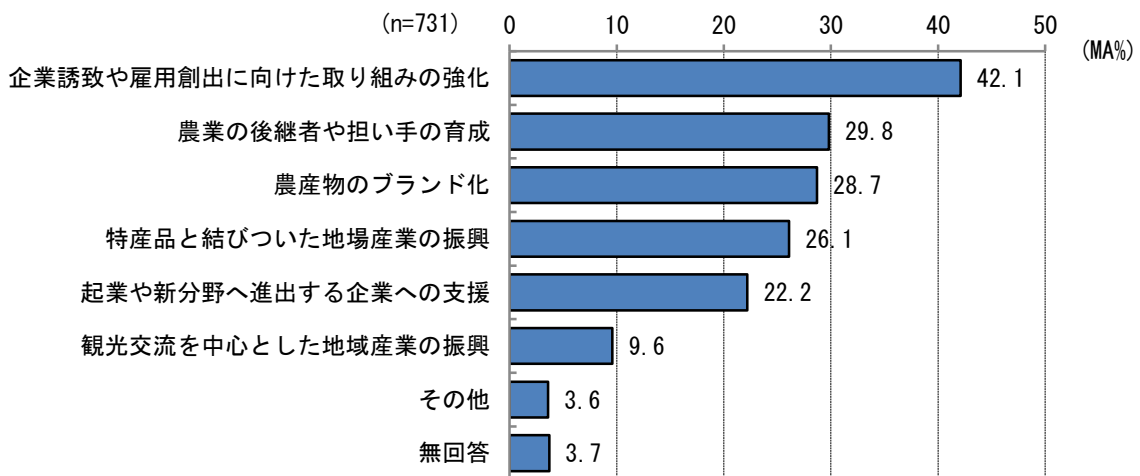
(3) 住みよい生活環境の創出に向けて重要だと思う施策

・住みよい生活環境の創出に向けて重要だと思う施策では、「公共交通機関の充実」が58.0%と6割近くを占めて最も高く、次いで、「快適で安全な道路環境の整備」(28.0%)、「地域医療・救急体制の確保」(24.9%)の順となっており、公共交通機関の充実を望む人が多くなっている。



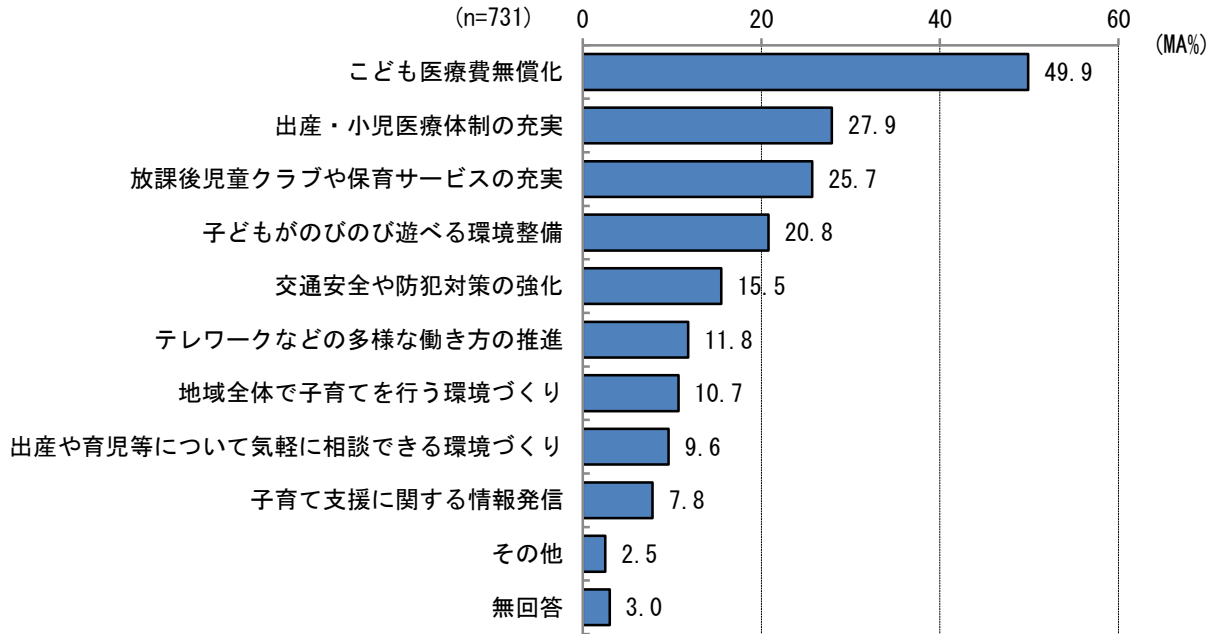
(4) 産業を活性化させるために重点を置くべきこと

・産業を活性化させるために重点を置くべきことでは、「企業誘致や雇用創出に向けた取り組みの強化」が42.1%と4割以上を占めて最も高く、次いで、「農業の後継者や担い手の育成」(29.8%)、「農産物のブランド化」(28.7%)、「特産品と結びついた地場産業の振興」(26.1%)の順となっており、雇用創出や担い手の育成などを望む人が多くなっている。



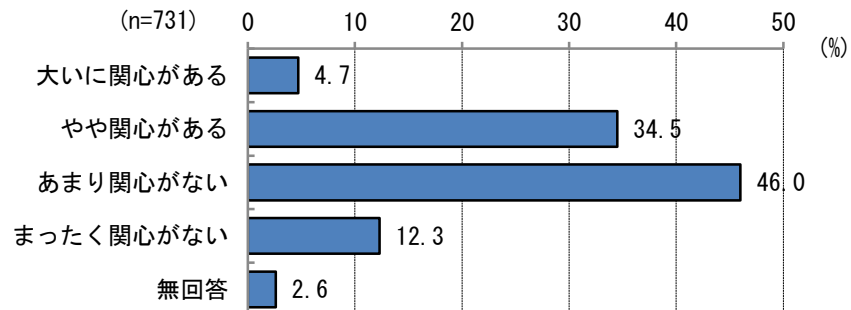
(5) 子育て支援のために重要だと思う施策

- 子育て支援のために重要だと思う施策では、「こども医療費無償化」が49.9%と約半数を占めて最も高く、次いで、「出産・小児医療体制の充実」(27.9%)、「放課後児童クラブや保育サービスの充実」(25.7%)、「子どもがのびのび遊べる環境整備」(20.8%)の順となっており、医療費の充実や子育て支援サービスと環境整備を望む人が多くなっている。



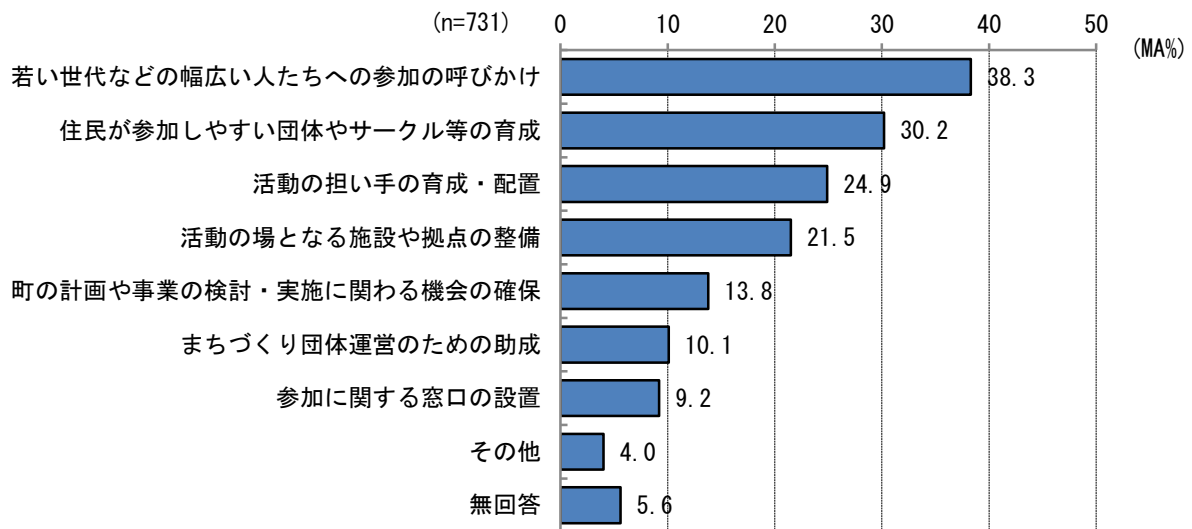
(6) 住民参加のまちづくり活動に対する関心度

- 住民参加のまちづくり活動に対する関心度については、「あまり関心がない」が46.0%と4割を超えて最も高く、「まったく関心がない」(12.3%)と合わせると、6割近くの人が住民参加のまちづくり活動に関心を持っていないことがわかる。
- 一方で、「大いに関心がある」(4.7%)と「やや関心がある」(34.5%)を合わせると、住民参加のまちづくり活動に関心を持っている人が4割程度を占めている。



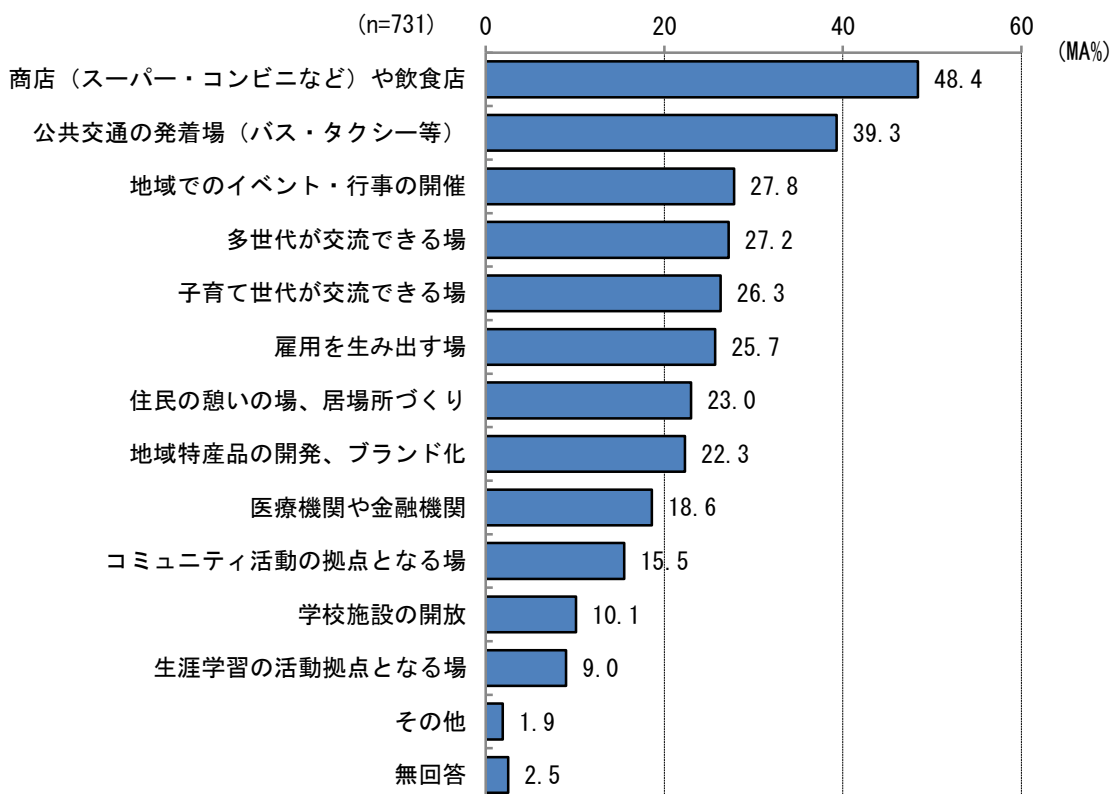
(7) 町政やまちづくりへの住民参加を進めるために重要だと思う施策

・町政やまちづくりへの住民参加を進めるために重要だと思う施策では、「若い世代などの幅広い人たちへの参加の呼びかけ」が38.3%と4割近くを占めて最も高く、次いで、「住民が参加しやすい団体やサークル等の育成」(30.2%)、「活動の担い手の育成・配置」(24.9%)、「活動の場となる施設や拠点の整備」(21.5%)の順となっており、団体や担い手の育成を望む人が多くなっている。



(8) 地域のにぎわいを創出するために必要だと思う機能

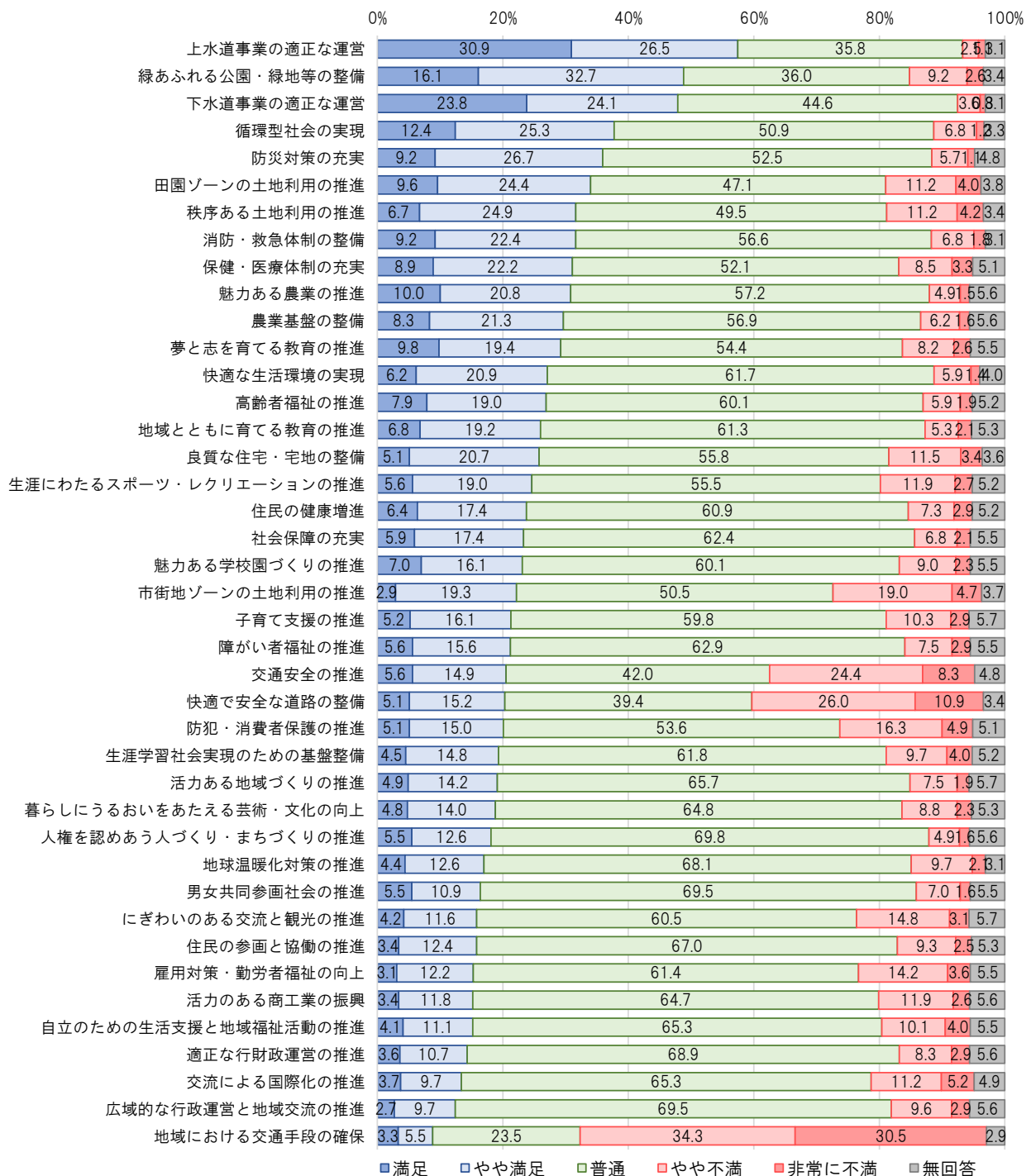
・地域のにぎわいを創出するために必要だと思う機能では、「商店（スーパー・コンビニなど）や飲食店」が48.4%と半数近くを占めて最も多く、次いで「公共交通の発着場（バス・タクシー等）」(39.3%)、「地域でのイベント・行事の開催」(27.8%)の順となっている。



5. 稲美町の施策について

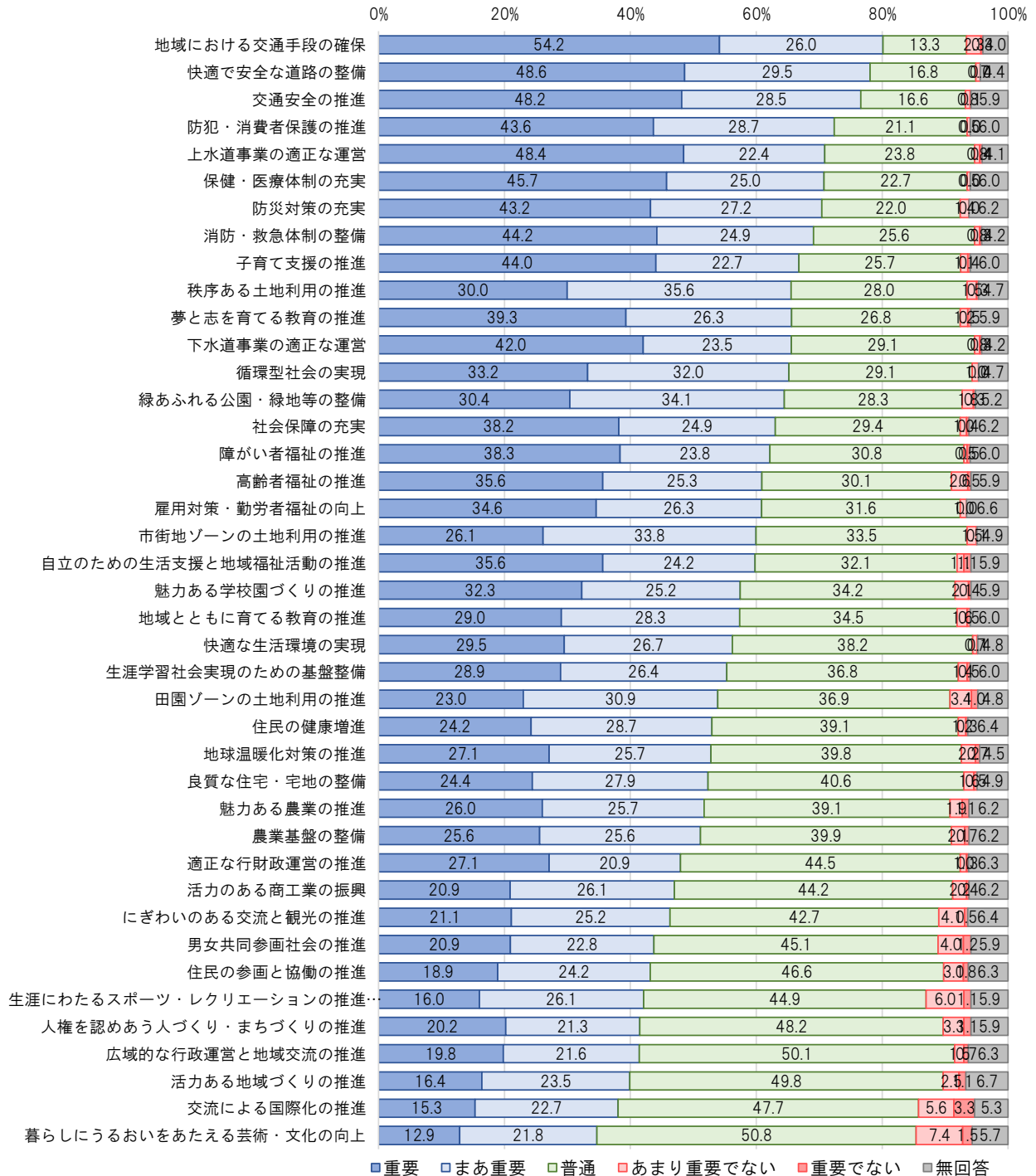
(1) 町の施策の満足度

- ・町の施策の満足度では、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』の割合をみると、“上水道事業の適切な運営”で57.4%と6割近くを占めて最も高く、次いで、“緑あふれる公園・緑地等の整備”（48.8%）、“下水道事業の適正な運営”（47.9%）、“循環型社会の実現”（37.7%）、“防災対策の充実”（35.9%）の順となっている。
- ・一方で、「やや不満」と「非常に不満」を合わせた『不満』の割合をみると、“地域における交通手段の確保”で64.8%と6割以上を占めて最も高く、次いで、“快適で安全な道路の整備”（36.9%）の順となっており、交通面での不満が高い傾向となっている。



(2) 町の施策の重要度

- ・町の施策の重要度では、「重要」と「まあ重要」を合わせた『重要』の割合をみると、“地域における交通手段の確保”で80.2%と約8割を占めて最も高く、次いで、“快適で安全な道路の整備”（78.1%）、“交通安全の推進”（76.7%）の順となっている。
- ・(1)と比較すると、不満の高い交通面の施策について重要性が高いと感じている人が多い結果となっている。



(3) 稲美町の行政施策全般の満足度

- ・稲美町の行政施策全般の満足度については、「どちらともいえない」が46.9%と4割以上を占めて最も高くなっているものの、次いで「やや満足している」(29.0%)となっており、「満足している」(5.1%)と合わせると、3割以上の人が稲美町の行政施策全般に満足していることがわかる。
- ・一方で、「やや不満である」(12.3%)と「不満である」(4.5%)を合わせると、行政施策全般不満を感じている人が1割以上となっている。

